

国際感染症コース

主たる研修病院 (所属病院)	東京都保健医療公社 豊島病院	
連携して研修する病院・施設(予定)	(国内)都立駒込病院、多摩総合医療センター、公社荏原病院 (海外)リバプール熱帯医学大学院、国境なき医師団、世界保健機関など	
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修および後期研修を修了しているか、修了見込みであること。または、それに相当する臨床経験を有すること(専門医資格など)。 ・心身ともに健康であること。 ・留学可能なTOEFLやIELTSの点数を、採用日までに取得する意思があること。 ・海外医療支援の広いコミュニティーの一員となり、支援活動に参加し、後進育成に貢献する、明確な意思があること。 	
コース責任者	氏名(所属)	足立 拓也(東京都保健医療公社豊島病院 感染症内科医長)
	資格名	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本感染症学会認定感染症専門医・指導医・評議員
	専門分野	集団発生時の感染症診療、人道危機における医療支援、保健医療分野の人材育成
臨床指導体制	<p>本コース責任者が指導医となり、1年ごとに達成度評価を行い、上級年次に進むにふさわしい十分な技量を有しているかどうかを判定する。臨床的な問題解決能力だけでなく、職業人としての規範も重視し、他職種からのフィードバック評価も参考にする。</p> <p>海外研修や海外派遣の期間は、留学先や派遣先の指導体制による。</p>	
臨床研究	これまで行ってきた研究と実績	<p>新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き 第5版(共著) 2021. 厚生労働行政推進調査事業費補助金</p> <p>シエラレオネにおけるエボラ出血熱対策(2014-2015) 世界保健機関 コンゴ民主共和国における黄熱対策(2016) 国際緊急援助隊事前調査団 バングラデシュ・ミャンマー国境の難民キャンプにおけるジフテリア対策(2017-2018) 世界保健機関 イエメンにおけるコレラおよびジフテリア対策(2019-2020) 世界保健機関 キャリア形成ワークショップ(2018) 国境なき医師団日本との共催</p> <p>Evidence-based guidelines for supportive care of patients with Ebola virus disease(共同研究) Lancet 2018;391:700-708. New filovirus disease classification and nomenclature(共同研究) Nature Reviews Microbiology 2019;17:261-263.</p>
	今後行う研究と研究体制	<p>海外で発生した人道危機において、切実に医療を求める人々に対して適切な医療を提供できる臨床医の育成</p> <p>実際の現地派遣を通して、困難に直撃された人々の健康回復、および健全な社会の復興への貢献</p>
研修項目	<p>感染症の大規模な流行、自然災害、難民支援などの国際的な人道危機において、切実に医療を求める人々に対する適切な医療を提供できる、国内ではいまだ数少ない専門性を持った臨床医の育成を目指す。</p> <p>国内診療: 感染症内科、または他の診療科で、急性疾患や重症患者の初期対応を含む日常診療を行う。</p> <p>海外研修: 医療支援に定評のある海外の教育機関で、途上国で医療を実践するための基本的知識とスキルを学ぶ。</p> <p>海外派遣: 国際医療支援NGOに登録し、事案の性質と各自の専門分野に応じて、現地で診療活動を行う。</p>	
研修内容・達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入院症例: 3年間で計100例(市中感染症、感染症法疾患、検疫法疾患、HIV/AIDSなど) ・他科併診: 3年間で計100例 ・外来担当: 週1日、3年間で計100コマ ・初期研修医の指導: 3年間で6名指導(グラム染色鏡検実習、培養結果の解釈演習) ・国内専門医資格の取得(総合内科専門医、感染症専門医など) ・海外専門医資格の取得(Diploma in Tropical Medicine and Hygieneなど) ・国際NGOへの登録、フィールド派遣(複数回が望ましい) ・論文: 和文または英文論文1本 	
コース内容に関する問合せ先	足立 拓也 (東京都保健医療公社豊島病院 感染症内科医長) TEL:03-5375-1234(代表)	